

會學濟經學大國帝都京

# 叢論濟經

號三第 卷五十二第

行發日一月九年二和昭

## 論叢

營業稅の課稅物件の地方分別難法學博士 神戶正雄

文化現象の凝集作用法學士 恒藤恭

純粹國家法學士 作田莊一

## 時論

獨逸社會民主黨の農政綱領法學博士 河田嗣郎

## 說苑

琉球の廢藩と日支兩屬關係の終末法學博士 山本美越乃

植民及び植民地の意義經濟學士 長田三郎

## 雜錄

英領東アフリカの現状と其將來經濟學士 田島正雄

同盟罷業保險の現状經濟學士 近藤文二

八日市の起源と歸化人經濟學士 菅野和太郎

地方財政と累進稅比例稅法學士 沙見三郎

## 法令

議院法中改正法律・震災手形處理委員會官制・公益質屋法施行規則・米及糠の輸入稅免除の件廢止

# 雜 錄

## 英領東アフリカの現状 と其將來

田 島 正 雄

### 一 東阿地方の輪劃

アフリカ大陸の海岸線を通觀すれば地中海沿岸、大西洋沿岸、印度洋沿岸及び紅海並にアデン灣沿岸の四區に分れて居るのであるが、その中、北はガルダフイ岬から南は喜望峰に至る印度洋岸に面する地方が、廣い意味に於てアフリカ大陸の東岸部を形つて居る。

此内伊太利領ソマリランドと葡萄牙領東アフリカを除いた以外の地方は全部英領であるが、更に之を大別すれば左の三地方とする事が出来る。

A 南阿聯邦

B 南北ローデシア及びナヤサランド

雜 錄 英領東アフリカ現状と其將來

C ケニヤ、ウガンダ、タンガニカ及びザンジバル

右の内、南阿聯邦は完全なる自治殖民地として半獨立の地位を占むる點に於て、他の兩地方に比し其政治的立場を全く異にして居るのみならず、經濟上文化上に於ても遙に高度の組織と内容を有して居る。

南北ローデシア及びナヤサランドは英國保護領として、南阿聯邦の前哨且南阿東阿間の連鎖たる地位を占めて居るが、地形上與地に踞踏し海岸線を有せざる事が其弱點であつて、要するに一の中間地帯と目す可きものである。

最後に、ケニヤ、ウガンダ、タンガニカ及びザンジバルの地方は赤道を挾んで印度洋に面し、相聚つて一團を成し、所謂英領東阿の核心を成すものである。

英領東阿なる名稱は廣狹兩様の意義に解せられて居り、上記四地方の外にナヤサランド及び北ローデシアを加へて之を英領東阿と呼稱する場合もあるが、本文に於ては之を狹義に解し、所説の範圍は之をケニヤ、ウガンダ、タンガニ

カ及びザンジバルの四地方に限定する、其理由は、後段詳説する如く、此等四地方が政治上經濟上相互依據の密接なる關係を有するに反し、

ローデシア及びナヤサランドは其輸出入貿易關係に於て、地理上寧ろ葡領東阿に依據し自ら別劃を成して居るからである。

茲に英領東阿四地方の狀勢を概括表示すれば左の通りである。

面 積 (平方哩)	人 口	一平方哩 輸 出 (磅)	輸 入 (磅)	輸出入合計人口 (一人當金額(磅))	備 考
-----------	-----	--------------	---------	--------------------	-----

ケ ニ ヤ 二五八、〇〇〇 二五八、六〇〇 一〇〇 九、五六一、二五〇 一三、六五七、七五〇 三八 } 關稅同盟 稅率通貨共通

ウ ガ ン ダ 九四、二三三 三、一四一、四四九 三三 四、〇三、九六九 三、七二〇、〇一四 一九

ダ ン ガ ニ カ 三三、四三三 四、三三、四八六 一一 四、〇三、九六九 三、七二〇、〇一四 一九

ザ ン ジ バ ル 一、〇〇〇 二〇、九六九 一〇三 二、〇三、七三〇 一、九六、三三〇 一九七

合 計 六九、七〇〇 九、九二、五五五 一四 一五、六三、九八八 一七、八四、九六四 三・三

註 土地面積は各種統計に依り多少相違あり、比較的信憑するに足ると認めらるゝものを探る  
人口統計も各地方に於て年度を一にせず、且推定數字を含むもの多し  
貿易金額はザンジバルの分は一九二四年度、其他は一九二五年度統計に據る

## 二東阿四地方の政治的地位及交通系統

先づ東阿四地方の政治的地位を概説すれば左の通である。

ケニヤ殖民地及保護領 Kenya Colony & Protectorate は直

轄殖民地及びザンジバル・サルタンの所領にして英國の保護領たる幅員十哩の海岸地方の兩部より成り、首府ナイロビに在る總督の管下に在る。

ウガンダ保護領 Uganda Protectorate は Buganda, Toro,

Ankole の三土人王國を含み、首府エンテベに在る總督の管理に屬して居る。

タンガニカ委任統治地 Tanganyika Mandated Territory は

舊葡領東アフリカがヴェルサイユ條約に依て國際聯盟の管理に歸し、英國の委任統治に附せられた地方であつて、首府ダレサラムに在る總督の統治する所である。

ザンジバル保護領 Zanzibar Protectorate はザンジバル及びペムバの兩島及び前記ケニヤの海岸地方より成り、アラブ系の

サルタン王國であるが、英國の保護領としてケニヤ總督が同時  
にザンジバルの High Commissioner の資格を以て之を管理  
し、實際上の行政は首府ザンジバル市に在る島司 Resident に  
依つて運用せられて居る。

斯の如く東阿四地方は各其政治的地位を異に  
し、形式上分立して居るのであるが、交通系統  
及び經濟狀態の方面から觀察したならば、相互  
の間に離つ可からざる依據關係を有して居るの  
である。

東阿の經濟狀態は後に詳説するが之を約言す  
れば原料品の輸出と製造品の輸入とを以て其貿  
易の根幹を形つて居るのである。而して此等輸  
入物資の集散は、ケニヤのモンバサ港、タン  
ガニカのダレサラム港及びザンジバルのザンジ  
バル港の三地點を通じて行はれるのであつて、  
此等三港と海外市場との間の海上輸送は左記定  
期航路に依て維持せられて居る。

A 歐洲航路(英國及大陸諸港) Union Castle Mail Steamship  
Co., British India Steam Navigation Co., Clan, Elderman  
& Harrison Joint Service, Deutscher Afrika Dienst,  
Holland Afrika Lijn Messageries Maritimes, Societa di

Navigazione Italiana.

B 印度航路(孟買) British India Steam Navigation Co.

C 東洋航路(日本支那海峽殖民地) 大阪商船會社

D 東阿沿岸航路 British India Steam Navigation Co., Co-  
wasjee Dinshaw & Bros., Zanzibar Government Steamers

E 其他連絡航路 北米南米濠洲方面に對しては未だ東阿より直  
通する定期航路無く、此等地方との間の物資の輸送は南阿諸  
港に於て接續連絡せられて居る。

以上諸航路に依つて運ばるゝ輸出入物資の東  
阿市場全般に亘る集散は左の如き經路に依るも  
のである。

A モンバサ港經由 ケニヤ政府の經營するウガンダ鐵道はモン  
バサを起點としてケニヤ高原を西北に貫走し、首府ナイロビ  
を経てグキクトリア湖畔のキスム港に達す、此延長五八七  
哩、ケニヤ、ウガンダを連絡する重要な幹線であるが其輸送  
力は未だ不十分である。途中數個の支線を分岐して居るがヴ  
オイ支線は國境を越えてタンガニカに入り珈琲産地の中心た  
るモシに至つてタンガ鐵道と接續してタンガ港に達し、ケニ  
ヤ、タンガニカ間唯一の鐵道連絡を通じて居る。

キスムからは、グキクトリア湖上にウガンダ鐵道の兼營せる  
汽船便を以てウガンダ、タンガニカの湖畔地方と連絡を通じ  
て居る。

B ダレサラム港經由 タンガニカ政府の經營せる東阿中央鐵道

はダレサラム港よりタンガニカ湖東岸のキゴマ港迄東西七七三哩キゴマ港よりは對岸白領コンゴーのアルバートヴヰルとの間に汽船連絡の便を有し、前掲ウガンダ鐵道と共に東阿内陸の交通系統上二大幹線を成すものであるが、南北に分岐する支線を有せざる爲め其の *vicinity* する區域は沿線狭小の地方に限られ、殊にヴキクトリア湖岸との連絡を缺けるを以て廣大なるタンガニカ領の輪送機關としては其能力未だ不十分である。

**C ザンシバル港經由** ザンジバルと對岸のモンバサ、ダレサラム其他諸港との間には前掲諸定期航路の船舶が頻繁に往復し其間の通商を連絡して居る。

**三東阿四地方の相互依據關係と其結合的傾向**  
以上の如き交通系統の下に在る東阿四地方の相互依據關係は如何なる内容をも有するかを概説すれば次の如くである。

ウガンダは棉花を主産とし又珈琲砂糖等の農産物に富み、人口稠密土人の文化及購買力も比較的進歩し居り輸入製造品に對する需要旺盛でつて東阿に於ても殊に重要な市場であるが、其位置海岸より離れて奥地に踞居して居る爲め輸出入の物資は總べてヴキクトリア湖上汽船及びウガンダ鐵道に依りケニヤを通過してモンバサ港を經由するのである。

ケニヤは珈琲を主産とし玉蜀黍、サイサル麻、曹達、皮革等を産出するが、モンバサ港及びウガンダ鐵道の繁榮を招致する

輸送貨物の大半はウガンダ市場を目的とするものである。

斯くの如くケニヤ及びウガンダの間の相互依據關係は最密接なものであつて此兩地方は經濟上に於ては相依つて一單位を成すものと觀る可きである、現に兩地方の間には關稅同盟が形られて居り、貿易統計面に於ても兩地方を併せて輸出入金額を計上せる事前掲の通りである。

タンガニカは其委任統治地たるの政治的地位とダレサラム港及び中央鐵道に依り自ら別個の通商系統を有するとに基き幾分其趣を異にし、ケニヤ、ウガンダの關稅同盟の範圍外に立つて居る。然し乍ら既説の通り中央鐵道は未だ領内全部に對する輸送力を有せず、殊に重要農産地たるヴキクトリア湖南岸ムワンザ附近の珈琲、落花生、玉蜀黍等の産物は湖上汽船に依つてキヌムに送り同港よりウガンダ鐵道に依つてモンバサ港に仕向けらるゝ一方、モシ附近に産する珈琲の一部も亦ウガンダ鐵道ヴオイ支線を経てモンバサに送られる。斯くの如くタンガニカも亦或程度迄ケニヤに依據するを免れない、故にケニヤとの間に未だ關稅同盟の締結を見るに至らずと雖も兩地方間の通過貨物に對しては相互免稅の取極があり、關稅定率及び通貨(東阿志を單位とす)に付てはケニヤ、ウガンダ、タンガニカの三地方は全く共通である。

斯の如き狀態に在る此等三地方が、將來政治上經濟上の進化に伴ひ、現在の南阿に觀らるゝが如き聯邦を形成するに至るべき運命を有する

て最近之を發表して居る。

事は蓋し自然の數であらう。但し現在に於ては、相互間の交通聯絡不十分なる上、經濟上財政上其立場を異にする若き殖民地の間に於て完全なる聯邦組織の形成は未だ其機熟せざるもの如く、一九二四年殖民次官たる保守黨議員 Ormsby-Gore を主班とし之に自由勞働兩黨の代表議員各一名を加へて組織せられたる Parliamentary East Africa Commission は東阿各地を視察研究し其調査報告書を青書として發表したが、其一節に於て東阿聯邦の組成は未だ時期尙早と認められるが、各地方總督の間に於て時々 Inter-Colonial Conference を開催、相互の連絡協力を維持す可しとの recommendation を掲げて居る。以て形勢の歸趨を察す可く、其後 East African Federation の形成を期望する運動は本國並に東阿に於ける關係者の間に於て漸く擡頭し來れるに鑑み、本國政府は再び委員を東阿に派遣し一層廣汎且具體的な調査を行う可き計畫を決定した、本年七月公布された Future Policy in regard to Eastern Africa 云々題なる白書に於

ザンジバルに至つては、前記三地方が相接壤せるに反し孤立して印度洋上に存し關稅定率及び通貨留比を單位とすも獨立して居るが、通商上に於ては本陸諸地方との間に密接な關係を有して居る。ザンジバルは往古東阿に於ける唯一の貿易港として物資集散の中心的地位を占めて居たのであるが、近年本陸地方の開発に伴ひモンバサ、ダレサラム諸港の繁榮と共にザンジバルの伸縮貿易は漸く衰退の傾向を示して居る、然も尙其東阿通商上に於ける沿革的地位を以て自ら取引系統を支配し、大商人の根據を此地に構ゆるもの尠からず東阿沿岸地方に巨り廣く物資の配給はザンジバルを經由して行はれて居るのである。

#### 四英國の殖民政策と東阿の地位

・英帝國を組成する數多き屬領の中に於て東阿の地位が近年殊に重視せらるゝに至つた所以は、戰後經濟的帝國主義の擡頭に伴ひ、棉花及び珈琲の産地としての東阿獨特の資源を開發利用するの必要が痛切を加へ來れると共に、之に依て増進せらるべき東阿地方の購買力を目標とし茲に本國製品の販賣市場を見出さむとするの努力が、最近英國貿易上の新傾向たる Trade within Empire の運動を背景として益々熾烈と

の地位が近年殊に重視せらるゝに至つた所以は、戰後經濟的帝國主義の擡頭に伴ひ、棉花及び珈琲の産地としての東阿獨特の資源を開發利用するの必要が痛切を加へ來れると共に、之に依て増進せらるべき東阿地方の購買力を目標とし茲に本國製品の販賣市場を見出さむとするの努力が、最近英國貿易上の新傾向たる Trade within Empire の運動を背景として益々熾烈と

なり來れるに存するのである。

之と共に政治上に於ては、タンガニカの委任統治權の獲得に因り、戦前アフリカ東海岸に蟠居して居た獨逸勢力の驅逐に成效した局面の變化が、英國のアフリカ植民政策に重要な轉機を齎した事が東阿の地位をして一層重きを加へしむるに至つた事も亦見逃す事が出来ない。

蓋し從來アフリカ大陸に於ける英國の勢力は南北二個の重心に依つて支持せられて居た、即ち南方に於ては和蘭系のボアを壓迫して南阿聯邦を形成し、北方に在ては佛蘭西の勢力を驅逐し埃及並に蘇丹に抜く可からざる地盤を築いて之を支配するの實權を握つた、而して南方からは進んでローデシア、ナヤサランドを前哨として漸次北上し、北方からはウガンダ、ケニヤに據つて其勢力を南下せしめ、斯くの如くにして南北相呼應してアフリカ大陸を縦斷せむとするの政策は、*the two* 即ち「ケープよりカイロへ」の標語の下に鋭意經營を進められつゝあつたのである。然るに戦前獨領東アフリカはケニヤと

ローデシアとの間に楔の如く嚮入し恰も南北の連鎖を中斷するの地位を占めて居た、この障害物を強力な競争者から奪つて自己の手中に收め得た事が、英國のアフリカ政策に新發展の機會を與へた事は容易に想見するを得べく、所謂 *the two* の政策の實現を完成する爲に東阿の經營に對し最近非常な努力を拂ひつゝある事は極めて自然の歸趨である。

前にも引用した所の East Africa Commission の調査報告は東阿に於ける殖民政策の要諦を論究提案したものであつて、東阿の經濟的開發に對する根本策は交通機關の整備と土人人口の増加並に其素質の改善とに據る可き事を切論して居るのである。

### 五 交通施設に對する英本國の經營

東阿内陸の交通機關に付ては第二項に概説した通りであるが之に對する英國の投資額は既に千二百萬磅以上に登つて居る、然も尙土地面積の廣大なるに比し鐵道の延長は著しく不十分であつて、其結果鐵道驛に達する迄の輸送に非常

な時間と費用とを要し輸出物産の價格を大ならしめ、或場合には折角の豊饒な産物も全然輸出の途を閉され空しく遺棄せらるゝの已むを得ざるに至る事さえある、此状態に鑑みウガンダ鐵道及び中央鐵道を基幹とし之より派出して主要農産地に連絡すべき幾多の支線が計畫されて居るが、其中最も重要なものは、ウガンダ鐵道ナクル驛から分岐しウキクトリア湖の北岸を廻つて直にウガンダに陸路連絡を通すべきウアシン・ギシニュー線と、中央鐵道タボラ驛より分れて北走しウキクトリア湖南岸のムワンザ港に達す可き支線とである。之等兩線は現在輸送機關の不備の爲開拓の手を加へられて居ない地方の豊饒な農産物を有利に市場へ搬出するを得せしむるもので其工事は現に着々進行中であり、近く完成の曉に於ける其効果は頗る大なるべきを期待せられて居る。

・其他廣く東阿全般に亘る鐵道網の新設擴張、既設線路の改良、海岸及び湖岸諸港の修備改善等に關し East Africa Commission は大規模な計

畫を立案し、之が資金を壹千萬磅と推算、其起債は倫敦市場に於て行ひ英國政府は之に對し最初五年間の利拂を保證す可き事を勸告したのである。然るに政府は財政の都合上右利拂の保證は之を引受けざる事に決定し其條件の下に前記東阿委員會案實行の可否如何を更に別個の East African Guaranteed Loan Committee に諮問した、同委員會に於ける審議の結果は東阿委員會案の交通整備計畫に對する所要資金を壹千六百萬磅と増加査定し、且政府の利拂保證を受くる能はざる以上右計畫に依る諸設備は到底最初より自立利拂の見込なく惹いて各殖民地財政の基礎に影響を及ぼすべきを以し、之が實施は暫く延期するの已むを得ざるべき旨を答申した、茲に於てか東阿に於ける交通整備の第二期的發展計畫は一時行惱の状態に陥つて居るが、該計畫の必要缺く可からざる事は本國並に殖民地朝野の均しく認むる所であるから、今後機會のある毎に何等かの方法を以て之が實現の企圖せらるべき事は必至の勢であらう。



## 六人口及人種問題

次に東阿に於ける人種及び人口の問題を考察するに當り、先づ第一項に表示した四地方人口合計の人種別を示せば左の通りである。

土人	九、八八一、七七九
印度人	五四、四六二
アラブ人	三四、一四三
歐米人	一三、八一九
其他	七、三一二
合計	九、九九一、五一一
平均一平方哩人口密度	一四

印度人は早くより印度西北部のグザラツト地方から移住した者で、ケニヤを主として其他三地方一帯に亘り廣く居住し、中には歐米商社に拮抗する資本及勢力を有する大商人もあるが、其多くは小規模の商工業を營み土人に對する輸入商品の小賣及び土人農作物の買付等に從事し、歐米人と土人との間に介在する中間階級として産業上不可欠の要素を形つて居る。

アラブ人は最も早く東阿に進入した外來人種として中世時代には東阿地方に於ける支配的勢力を振つたのであるが、近世歐洲の新興勢力に壓せられ殊に奴隸貿易の禁止と共に其經濟的根據を奪はれ現時は僅にザンジバルの小王國を基礎とし本陸海岸地方に亘つて英國の保護下に餘喘を保つのみ、其生業としてザンジバルの特産たる丁子の栽培其他小規模の商業及沿岸航運に

從事して居る、現代の東阿に於ては餘り重要な人種では無い。

歐米人は政治的關係上から英人を主とするは固よりであるが、其他獨、蘭、佛、白、伊、米諸國民を數へ、ケニヤを主として其他各地の海港都會に住居し官廳商社の業務に従事する者多く又ケニヤに於ては氣候溫和味肥沃なる高原地方に於て農園を經營せる者も尠くない、數に於ては最小なるも其勢力に於ては東阿に於ける支配階級の地位を占め居る事勿論である。

最後に、數量的に觀て東阿人口の主體を成すものが土人である事は前掲表示の數字に依つて明であり東阿に於ける人種人口の問題は土人を中心として考察せねばならぬ次第である。

東阿の土人は Bantu 族を主とし、大湖沿岸並にナイル河溪の地方には Hamitic Nilotic の兩族又海岸地方にはアラブと混血した Swahili 族等の分子を交へて居り、スワヒリ語は東阿一帯に亘つて廣く使用せられて居る。

土人の職業及び生活狀態は地方に依つて著しい差違を存して居る。ウガンダには既述の如く土人王國が存在し、王、大臣、酋長等の上層階級は進歩せる文化生活を營んで居り又一般土人も棉の栽培に依る所得の大なる爲め生活狀態は

比較的進んで居る、他の地方に於ても都會に住む者は巡查、自働車運轉手、鐵道工手、ホテル及び家庭の使用人、其他の熟練職工として漸く野蠻生活の域を脱しつゝあるが、其他の大部分の土人は各地の村落に棲み主として農業に従事し其生活状態は未だ尙極めて低級である、只從來裸體生活を事として居た所の東阿土人が近來都鄙を通じて一般に着衣の習慣を作りつゝある事が土人の生活上特に著しい現象であつて東阿の輸入貿易に對し尠からざる影響を及ぼして居る事は後段に詳説する通りである。

茲に最も注目すべき事實は、人口密度が前記の如く平均一平方哩當一四人といふ極めて稀薄な事である、加之過去の統計に依れば土人人口は逐年減少の傾向を示して居た、謂ふ迄も無く廣大なる東阿地方の資源開發の爲には豊富なる勞働の供給を直接必要とするのみならず、前項略説せる交通整備の爲に投下せられた資本も亦勞働に依て支持せらるゝに非んば其效率を發揮する事が出来ない、而も東阿の風土と土人生活

程度の低級な事とは相俟つて海外より勞働移民を容るゝの餘地を無からしめて居る。

斯の如き状態の下に在つて東阿に於ける勞働不足の問題を解決せむとせば結局土人々口の増加と其智能の啓發とを計り量及質に於て勞働供給の改善を計るの外はない。之れ即ち東阿の生産力を促進すると共に亦自ら其購買力を増進せしめ結局東阿市場の經濟的價値を向上せしむる所以であつて、蓋し東阿殖民政策の根本的要義とすべきものであるから、英本國に於ても此點を特に重視して居るのである。

此點に關し土人人口の増加力缺如の原因は從來其衛生智識の不足せる爲め不良なる風土に冒さるゝ者多く特に育児法の不完全なる爲め幼児死亡率の高かつた事に歸すべきは研究知悉せられて居るのである、依て東阿各地の殖民政府は何れも *Medical Service* を設け多數の専門家を以て土人間に衛生智識を普及し、又各地に病院助産所を作つて施療を行ひ極力經營に努め來つた結果漸く最近幾分人口の増加を見るに至つて

居る。尙一面に於ては嚴重な規則を設けて土人の國外移出を防ぎ之が保護を計つて居る。

一方土人の勞働能率を増進する爲には各地に學校を設けて簡易な普通教育を施すと共に手工耕作法を練習せしめ、又他方に依て土人所得に多寡の差異あるに應じ課税額を適宜加減して必要に迫らるゝ勞働心の刺戟を計り、進んで鐵道橋梁道路港灣等の公益施設に關しては一定の條件の下に強制勞働制度をも施行して居るのである。

斯くの如く土人啓發を目的とする政策は周到の用意の下に尠からざる經費を費して着々實行せられて居るのであるが、曩に一言した通り此等土人と歐洲人との間には多數の印度人が介在して居るので、政府當路者は對土人政策が印度人に依て其徹底を妨げらるゝ惧ある事に付き幾分の不安を免れず、常に此點に付て警戒的態度を執つて居る、既に此點に於て英印人間の關係に信認感の乏しきに加へて、一般産業上に於ても兩者の利害は一致を缺き相競争する場合が尠

くなく而も甚勤勉にして生活程度の低い印度人に對抗すれば常に英人が不利の立場に置かれる事になる、殊に戦後英本國に於て痛切に現れて來た所の失業問題緩和の一策として退役軍人の東阿移住を奨励し此等移住英人が續々ケニヤ高原を中心として各地に農園の經營を行ふに至つて、經濟上英印人間の利害衝突は益々露骨濃厚となり、遂に一九二〇年高原地帯に於ける白人留保地設置の決定に伴ひ英印人間に激烈な葛藤を醸し、有名なるケニヤ印度人問題を惹起するに至つたのである、此事件の顛末は一九二三年白書に詳記せられて居るのであるが、爾來英印兩者間に於ける感情の疎隔容易に抜く可からざるものあり、惹いて東阿に於ける有色人排斥の偏見の基調を成すに至つて居る。

我邦と東阿との關係は後段別記するが上記の英印關係は東阿を研究するに當り邦人として特に留意を要する問題である。

### 七 東阿の産業

東阿に於ける産業は農業を主體とする事既に

第二項に於て一言した通りであるが其代表的農産物に付て概言すれば次の通りである。

A 棉 棉はウガンダを主産地としタンガニカも亦有望な棉産地とせられて居るがケニヤ及びザンジバルの産額は極めて僅少に過ぎぬ。

東阿に於ける棉の栽培は一九〇九年米棉アツブランド種の移植に初まるのであるが爾來其産出は逐年増加し品質は米棉を凌駕し今や東阿は蘇丹と相並び英帝國中最重要な棉産地たるの地位を占むるに至つた。謂ふ迄もなく紡績業は英本國に於ける最重要な産業の一つであるが其原料たる棉の供給に關しては印度棉の織維劣質なる爲め従來主として米棉及び埃及棉の兩外國品に依採して居たのである、然るに戦後經濟上に於ける帝國主義的傾向の勃興と共に棉産地としての東阿の地位が特に重視せらるゝに至つたのは誠に當然の歸趨である。

東阿棉は主として主人に依つて栽培せられ自國內に紡績工場を有せざる爲め全部海外に輸出せらるゝのであるが、一九二五年度の貿易統計は左の數字を示して居る。

英本國	印度	其他	合計
ウガンダ及ケニヤ	二、六五〇、七〇〇	一、八五〇、二五〇	二、六〇〇、〇〇〇
タンガニカ	三、元、六六〇	四、六四〇、三九〇	八、〇〇〇、〇〇〇
	四、八三〇	二、四〇〇、六六〇	五、四〇〇、〇〇〇

上記の棉輸出額合計を數量にすれば約十八萬俵に達す可く、又印度向輸出の數字中には孟買經由て我邦に仕向けられたものが大部分を占めるのであつて其量三萬俵を超え我邦は實に

雜錄 英領東アフリカ現狀と其將來

英本國に亞ぐ東阿棉の大顧客である、一九二六年以後は新設の我がアフリカ航路に依て東岸綿は直接我邦に輸入せられてゐるから貿易統計面にも明記せらるゝに至るであらう。

B 珈琲 珈琲も亦東阿の特産として英帝國內に於ても特殊の地位を占めて居る、ケニヤ及びタンガニカは其主要産地として高原地方に於ける歐人經營の農園に産出せられ就中タンガニカのアルシヤ珈琲は品質極めて優良倫敦市場に輸出せられて獨特の聲價を有して居る。

一九二五年度貿易統計に依る輸出額は左の通りである。

英本國	ケニヤ及びウガンダ	其他	合計
ケニヤ及びウガンダ	八七〇、五六〇	一、四八三、〇〇〇	二、三五三、〇〇〇
タンガニカ	四、七三〇	四、三三〇	九、〇六〇
	一、九六〇	一、九六〇	三、九二〇

右の内タンガニカ輸出の大部分がケニヤ及びウガンダ向とつてゐるのは、第四項に述べた様な輸送系統の關係上一旦ケニヤに送られモンバサ經由て再輸出せらるゝものが多いからであつて其終局仕向地は矢張英本國を主とするものである。

C サイサル麻 サイサルはタンガニカを主産地としケニヤ之に亞ぐ。簡單な過程を經て其纖維を抽出洗滌乾燥し之をサイサル麻と稱し總べて海外に輸出して居るが、獨自兩國を主とする歐大陸を最とし續いて英本國其他に輸出せられて居る、一九二五年度貿易統計左の通りである。

歐大陸	英本國	其他	合計
タンガニカ	七〇、八四〇	一、九三〇、七〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇
	六六、〇〇〇	六六、〇〇〇	一、三二〇、〇〇〇

第二十五卷 四三九 第三號 一三九

ケニヤ及びウガンダ 一九二三磅 二萬八千六百七十九磅 五二、二二五磅

D 丁子 丁子はザンジバルの特産で其産額が全世界需要量の九割を充すに足り香料として海外に輸出せらる、一九二四年度貿易統計は左の通りである。

印度	米國	英本國	其他
五八四、五三三	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇
三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇

其他農産物 以上四大重要農産物の外、玉蜀黍、落花生、コブラの産出年々増加し何れも海外に輸出せられ、又ケニヤ、ウガンダ、タンガニカを通じて牛、羊、山羊の牧畜盛に行は

れ皮革及び酪製品は東阿に於ける主要輸出品の一である。砂糖及び米の栽培も行はれて居るが未だ地方的需要を充すに足らず之が供給を輸入に仰いで居る。

以上概説した所の農産は豊富なる東阿資源の全量から見たならば未だ僅に交通輸送の便を有する一部地方の開拓の結果に過ぎぬものであつて、肥沃なる未耕の處女地は尙到る處に殆んど無限に存在して居るから今後人口の増加と交通機關の整備とに伴ひ産額増加の餘地は極めて多いのである。

次に鑛産資源に關しては、金銀、雲母、石油等

の存在が地質研究的に報告せられて居るのみで未だ産業化の域に達して居らぬ。唯一の鑛産物として茲に特記す可きはマガヂ天然曹達である、之はケニヤの南境に近いマガヂ湖から産出するもので湖底一面に天然曹達の沈澱より成り湖水も亦濃厚なる曹達溶液でその表面は一帶に曹達の結晶を以て蔽はれて居る。此マガヂ曹達の探掘權は英國に本社を有するマガヂ曹達會社がケニヤ政府の特許に依て之を獨占し、湖畔に工場を設け天然曹達の結晶を洗滌加熱粉碎して曹達灰となし、之をウガンダ鐵道マガヂ支線に依てモンバサ港に送り同地には倉庫及び専用棧橋の設備を有し船積輸出を行つて居る。一九二五年統計に依る其輸出量は左の通りであつて、我邦が群を抜いて最大顧客の地位を占めて居る。

日本	印度	其他	合計
一、三六〇	三、七五〇	六、三三〇	一、三六〇

マガヂ曹達は其安價にして供給豊富なる爲め我邦に於ける需要は益々増加し、最近では毎月四千屯以上の輸入を見るに至り、硝子製造其他諸

工業に對する重要な基礎原料たる地位を占めて居る。

最後に製造工業の方面を觀るに、東阿地方は石炭石油等燃料の產出なく且つ第六項に述べたる如く勞働供給の不足せるに加へて機械類輸入の不便不經濟なる爲め工業の觀る可きものなく、僅に前記の曹達灰工場の外小規模の製糖、醸造、石鹼等の工場が地方的需要に應ずる生産を行ふあるのみ、又將來に於ても到底工業發達の見込無く製品の供給は總べて之を海外よりの輸入に仰ぐの現状を持續するであらうと認められて居る。

### 八對外貿易關係

英 本 國	ケニヤ及 ウガランダ	2,510,500磅
印 度		1,915,500磅
其他英屬領		250,000磅
英帝國合計		4,676,000磅
白 耳 義		1,150,000磅
獨 逸		1,950,000磅
雜 錄	英領東アフリカ現狀と其將來	

前項概説せるが如き産業組織を有する東阿の對外貿易が原料の輸出と製品の輸入とを以て其體系とする事は自然の歸趨であり、又英國の殖民地として巨額の投資を蒙つて居る關係上、輸出入共に母國との取引を主とする事は亦當然の歸結である。

東阿四地方の輸出入總額及び主要物産の輸出狀況は第一項及び第八項に於て夫々概言した通りであるが、今輸出入の各方面に於ける取引系統並に其内容を略説すれば左の通りである。

**A輸出貿易** 國産輸出を仕向地別とし更に他地方産物の再輸出を別記表示すれば左の如し。

タンガニカ	1,210,000磅	ザンジバル	1,510,000磅	合 計	2,720,000磅
	5,150,000磅		3,950,000磅		9,100,000磅
	1,130,000磅		6,300,000磅		7,430,000磅
	1,110,000磅		1,310,000磅		2,420,000磅
	1,150,000磅		600,000磅		1,750,000磅
	1,150,000磅		1,150,000磅		2,300,000磅
	1,150,000磅		1,150,000磅		2,300,000磅
	1,150,000磅		1,150,000磅		2,300,000磅

米	105,170磅	133,730磅	12,560磅	28,280磅
和蘭	33,852磅	37,250磅	3,398磅	25,092磅
日本	127,835磅	177,550磅	49,715磅	127,835磅
其他	37,918磅	33,918磅	4,000磅	9,918磅
外國合計	1,360,870磅	820,250磅	540,620磅	2,721,740磅
國產輸通計	7,632,840磅	2,901,350磅	1,392,790磅	11,926,980磅
再輸出	1,750,390磅	1,131,600磅	618,400磅	3,499,390磅
輸出總計	9,743,100磅	4,903,980磅	2,417,810磅	17,064,890磅

即輸出總額中國產輸出は七六%再輸出は二四%の割合となり、國產輸出中英帝國各地仕向七七%外國各地仕向二三%の割合を示して居る。

輸出品の内容は前項に述べたる東阿特產品より成り大體に於て英本國仕向を最大とするが、之に次ぐ所の仕向地は印度である、これ印阿間の地理的近接と第六項に述べたる如き印度人の勢力とに基き兩國間の通商旺盛なる事を示すものである、尤も印度に仕向けらるゝ輸出品中孟買を経由して更に他方面に輸出せらるゝもの尠からず我邦へ輸出せらるゝ棉の如きも此内に含まるゝのである。前表に於て日本向輸出として

示されたる數字の内容は殆んど全部前項所記のマガチ曹達より成るものであるが今日に於ては曹達輸出の増加と棉の日本向直積とに因り貿易表面日本向輸出額は著しき増加を示して居る筈である。

前表中ケニヤ及ウガンダは棉、珈琲、サイサル、玉蜀黍、皮革、曹達を以て東阿輸出總額の六〇%を占め且其貿易系統の常態を代表するものである。タンガニカはサイサル棉珈琲落花生を主とし、二五%に達して居るが前表仕向先中其他英屬領向數字の著大なるは第三項に述べたる如き輸送系統の關係上一旦ケニヤに輸出され

モンバサ經由で再輸出せらるゝものが多い故であつて其終局仕向地は矢張英本國を主とするものである。ザンジバルの輸出は一五%で其内容が丁子を主とする關係上仕向先としても同品の最大市場たる印度が特に重要な地位を占めて居るのである。

再輸出の内容はケニヤ及ウガンダに於てはタンガニカ産品、タンガニカに於ては白領コンゴ

一産品、ザンジバルに於ては東阿沿岸地方一帯の産品より成り、夫々モンバサ、ダレサラム、ザンジバルの各港を經由し輸出せらるゝものである。

**B 輸入貿易** 普通の商業取引より生ずる輸入を仕出國別とし更に政府勘定に依る公用品輸入及び他地方方向の通過貨物の輸入を表示すれば左の通である。

	ケニヤ及 ウガンダ	タンガニカ	ザンジバル	合計
英 本 國	三、〇六八、九三三磅	一、一三三、七三三磅	三、四四、六三三磅	四、五五七、六七三磅
印 度	八七、八七五磅	四三、八五八磅	七六、元三三磅	二、〇九八、九九六磅
其他英屬領	一、六四四、五五磅	一三〇、三四八磅	三九七、六〇〇磅	二、一七二、一四三磅
英帝國合計	五、五九〇、三三三磅	一、八六九、九三三磅	四、四四、二三三磅	八、八八四、七五三磅
米 國	七三三、二四磅	一一、六二七磅	三、四四四磅	八、九、三三三磅
獨 逸	四、〇〇、九〇〇磅	三、〇〇〇、八〇〇磅	五、三三三磅	七、三三、三三三磅
和 本	四、七、七九磅	五、七、六二〇磅	五、七、七九磅	七、九、一、〇五〇磅
日 本	三三三、五三三磅	一〇五、三三三磅	八、八、八二〇磅	六、六、五三三磅
其 他	六〇七、三三三磅	一四、四三三磅	二、七、六三三磅	一、〇、九、六九三磅
外 國 合 計	二、四九八、六六磅	一、〇、九、六九三磅	五、七、六三三磅	四、〇、九、六九三磅
商 業 輸 入 通 計	八、〇、九、六九三磅	二、八、八、九七磅	一、七、六、三三三磅	一三、九、九、九七磅
政 府 輸 入	三、七、七、四四磅	三、四、四、四四磅	三、四、四、四四磅	四、二、九、九、六六磅



通過輸入 三〇六、八八磅

五九、六〇五磅

一、九六、三〇〇磅

六、一五、二九磅

輸入總計 三、三三、五七〇磅

九、一〇、一〇四磅

一、九六、三〇〇磅

一七、八、二九磅

註 右表中タンガニカの政府輸入三四二、四九四磅は地金銀のみで其外に普通商品四二〇、九八〇磅の政府輸入あるも之

は商業輸入の數字に含まれて居る。

即總輸入額中商業輸入は七三% 政府輸入は二七%の割合となり、商業輸入中英帝國各地仕出六九%外國各地仕出三一%の割合を示し輸出の場合同様の均衡を保つて居る。

商業輸入の内容は之を大別して土人を需要者とする消費品と歐米人、印度人を顧客とする資本的物資とに分つて觀察するを便とする。

前者は綿布類を主とし其他 エナメル器、陶器、硝子器、燐寸等雜貨を含み、就中綿布は第六項に述べたる如く土人生活状態の向上に伴ひ着衣の習慣の進むと共に需要最も旺盛であつて東阿四地方を通じ輸入品の大宗である、其供給者としては英本國を主とするも之に對抗して獨蘭印各國製品と共に本邦製品の輸入頗る盛で殊に印度品として輸入せらるゝものゝ中には邦品の再輸出も尠からず含まれて居るから、實質上

に於ては本邦品は英國品に拮抗し東阿市場に於ける最有力な競争者たる地位を占めて居る。

次に後者の部類に屬するものとしては自働車自働車油機械類を主とするが、殊に前二者は鐵道不足の東阿地方に於ける重要な貨客輸送機關として非常な需要があり英米兩國品の競争を見て居るのである。

商業輸入の總額に對する各地方の割合はケニヤ及ウガンダ六三%、タンガニカ二二%、ザンジバル一五%となつて居る事は輸出の場合と略其均衡を保つて居るが、其内容に於ては輸出の場合各地方に依て夫々其産物の種類を異にするに反し輸入の場合に於ては各地方を通じ何れも前段述べたるが如き品種より成り、又仕出國別より觀るも英印兩國を主とし米獨蘭日諸國之に次げる状態も各地方共通である。只前表中ケニヤ

及ウガンダの商業輸入中其他英屬領仕出の數字著大なるはモンバサ船積を目的とするタンガニカ産物の一時的輸入多量に達するに因る。

政府輸入は鐵道湖上汽船の建設材料並に使用燃料及び土木建築に消費する織材セメント等を主とし又各種硬貨をも含み其大部分が英國品より成れる事は當然の事實である。

### 九我邦と東阿との關係及び其將來

從來我邦と東阿との間には孟買地方へ輸出せられて居た我邦の商品が印度商人の手を経て東阿へ再輸出せられ又一旦孟買へ輸入せられた東阿棉が更に我邦へ輸入せらるゝ様な間接的の通商關係が存するのみで相互間の關係は極めて稀薄な一方、マガヂ曹達の如きも日阿間に直通定期航路の便を缺ける爲め時々不定期備船を以て輸入せらるゝ外なく自然其數量も大なる増進を示し得なかつたのである。

然るに大戦中及其直後我邦の商權が世界の各市場に向て新なる發展を遂ぐるに至ると共に遂に大正十年以來我邦主要棉業者の東阿進出とな

り綿布の賣込及び棉花の買付を直接行ふ事となり茲に日阿通商關係も一新紀元を劃するに至つたのである。爾來兩國間の取引量は年を逐ふて増進し從來の如き孟買或は亞丁經由又は不定期船に依る輸送の如き不便なる方法に安ふじて居られぬ状態に迄局面の進展を遂ぐるに至つた結果、大正十五年四月以降帝國政府の命令航路として阿弗利加航路東岸線の開設を見、大阪商船會社が其經營に當り毎月一回の定期航路を維持して今日に至つて居る、即斯くの如くにして最近數年の間に日阿間通商は其取引商品の内容に於ても輸送機關の組織に於ても全く面目を一新せる發達を遂げたのである。

想うに我邦の國狀たるや有利なる原料を四方に求め之に依て得たる製品の市場を世界に開拓するを以て經濟的國基涵養の根本方策とす可きや多言を要せぬ。此の點から觀察して東阿地方が我邦輸出入貿易に對する將來の重要市場たり得べき素質を備ふる事前段述べ來れる所に依て明であらう。即ち我が紡績業の進化と共に高級

綿布の原料としてのウガンダ棉は今後愈々需要を増すべく又硝子製造其他各種工業の基礎原料たるマガヂ曹達の安價且豊富なる供給の有利なる事勿論の次第である。而も一方に於ては従來我製品の最大市場たりし支那及印度が其産業的進化と共に漸く各種製品自給の域に進まんとし其關稅政策の保護的傾向に伴ひ我商品販路としての前途を動もすれば危まれんとする。折柄我製品に對する需要の將來に於て高度の適應性と豊富な可能性とに富む所の東阿市場に對しては、今日に至て既に對策を講じ經營を策する事決して夙きに失せぬと信せらるるのである。

### 附記 東阿研究の參考資料

文化の程度低く諸般の制度未だ備るに至らざる東阿地方に於ては各種の統計調査報告其他一般的研究資料は甚乏しうのであるが、本文に概説した諸項に關し参照の價値ありと認めらるる資料を左に掲記する。

#### (A) 東阿全體に亘る一般的研究資料

Report of the East Africa Commission,

(Blue Book, Cmd. 2387.)

Future Policy in regard to Eastern Africa,

#### (White Paper, Cmd. 2904.)

Report on the Trade and Commerce of East Africa,

(Department of Overseas Trade)

The South and East African Year Book and Guide

(Published annually by Union Castle Mail S. S. Co.)

East African Red Book

(Published annually by the East African Standard)

East Africa (Weekly Journal)

英領東アフリカ事情 (外務省海外商報臨時増刊一六三)

阿弗利加觀察報告書 (横濱正金銀行)

東阿弗利加經濟事情調査報告書 (大阪商船會社)

#### (B) 貿易關係資料

Annual Trade Report of Kenya and Uganda

(By the Commissioner of Customs for Kenya & Uganda)

Tanganyika Territory: Trade Report (Published annually by

the Comptroller of Customs, Tanganyika)

Annual Trade Report of the Zanzibar Protectorate

(By the acting chief of Customs, Zanzibar)

#### (C) 交通關係資料

Report of the General Manager of Uganda Railway

(Annual Publication)

Tanganyika Railways Handbook (Annual publication)

Report of the East African Guaranteed Loan Committee

(White Paper, Cmd. 2701)

Report of the Port Commission of Enquiry

(D) 各地方關係資料

Kenya. published for the British Empire Exhibition.

Handbook of Uganda

Blue Book, Uganda (Annual publication)

Report of the Uganda Development Commission.

Report of the Empire Cotton Growing Corporation.

Tanganyika. Exhibition Handbook

Blue Book, Tanganyika (Annual publication)

Report by H. N. Government on the Administration un-

der Mandate of Tanganyika Territory

(Annual publication)

Blue Book, Zanzibar (Annual publication)

School History of Zanzibar